

ようこそ看護大学へ

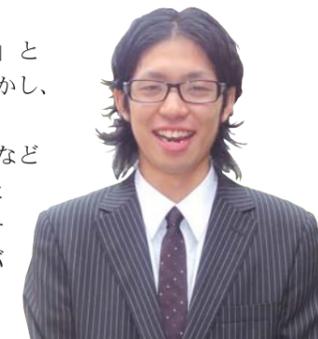
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学を学生会一同、心から歓迎いたします。

この場をお借りして、皆さんに本学の紹介をしたいと思えます。本学では「看護とは何か」ということから始め、その理論や方法について講義や演習、実習を通して学んでいきます。しかし、勉強だけではなく、イベントやサークル活動も盛んに行われています。

本学の大きなイベントとしては、毎年6月に行われる看大祭や9月に行われる渡嘉敷島研修などがあります。その他にも、球技大会やオープンキャンパスなどのイベントを学生会が主体となり企画、運営しています。また、琉球大学、名桜大学と連携し活動を行う「学生コンソーシアム」では、北部生涯学習センターにて、今年の3月に第1回となる看護学生フェスティバルを行いました。これにより、他大学の看護学部の学生と交流を深めることができ、将来、医療の現場に出た際に相談できる仲間をつくることができます。

勉強はもちろんですが、看大祭や学生コンソーシアムなどの活動に積極的に参加することで、今後の視野も広がり、より充実した学生生活を送ることができると思いますので、新入生の皆さんにも積極的に活動に参加して頂きたいと思っています。

一緒に楽しいキャンパスライフを送りましょう！



学生会会長
儀間 博彦



平成23年4月4日、看護学部第13回、別科助産専攻第4回、大学院第8回入学式が行なわれ、学部生80名、別科生20名、大学院生8名、合計108名の新たな門出を祝福しました。

前田学長から108名の入学生の入学を許可することばが述べられました。

これを受けて、学部生の吉村基見さん、別科生の松本朋子さん、大学院生の平良美栄子さんが、それぞれ宣誓を行いました。

来賓祝辞には、就任まもない与世田兼稔副知事が知事あいさつを代読し、入学生の門出を祝福しました。

平成23年度沖縄県立看護大学・大学院の入学式



平成23年度入学式 学長告辞

沖縄県立看護大学 学長 前田 和子

本日は、副知事与世田様はじめ多数のご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成23年度沖縄県立看護大学・大学院の入学式を挙げていきますことは、本学にとってこの上ない喜びであり、ご出席の皆様にご挨拶申し上げます。

さて新入生の皆さん、皆さんを本学の一員として迎えられたことを大変うれしく思っています。学部入学生の皆さんは、将来看護職者として人々の役に立ちたいという思いで本学を選び、これまで厳しい努力をされてこられました。今は達成感とゆっくりしたいという気持ちがあるかもしれませんが、本学には沖縄県民のために質の高い看護職者を養成するという使命があります。

皆さんは4年後には全員が看護師と保健師2つの

免許をもつ資格者として、また、高いプロ意識とプライドを持つ看護職者として、さらに、卒業後も新しい知識や技術を求めて勉強し続ける生涯学習者として社会に旅立ちます。そのために私たちは3年かけてカリキュラムを大改革しました。皆さんが新カリキュラムを履修する初めての学生です。

別科助産専攻入学者の皆さん、皆さんは沖縄県の母子保健が危機的状況にあることを理解し、その解決に貢献したいとの志をもって入学されました。1年という短い期間です。将来自立した助産師活動ができるよう時を惜しんで勉学に励んで下さい。

保健看護研究科に入学の皆さん、皆さんは看護職者、看護教員として経験を積み、自分の課題を見つけたからこそ入学してこられました。学ぶ者としての自覚と学問に対する謙虚な姿勢をもち勉学に励まれ、保健看護分野における実践者のリーダーとして、看護教育研究者として真の力をつけられるよう期待しています。

今回の入学式は県立看護大学の入学式としてまだ13回目ですが、本学の歴史は昭和21年から始まっています。既に大学と看護学校の同窓会は統合され、皆さんには8千人以上もの頼もしい先輩がいます。本学の教職員はもちろん、先輩たちの力も借りながら、忍耐と批判精神、そして創造力、この3つの精神をもって、新しい看護の道を力強く踏み出して下さるようお願いして告辞と致します。

平成23年4月4日

新入生の声



看護学部看護学科
吉村 基見

私は看護師である姉に憧れて看護師になろうと思いました。確かに看護師は精神的につらい部分もあると思いますが、患者さんや患者さんの家族の心のケアの出来る唯一の仕事だと思います。

看護大学に入学したからには看護師として必要な知識、技術を身につけ、サークル等の大学生活の中で先輩方とも交流しながら、看護師としてのコミュニケーション能力を身につけながら、楽しい大学生活を送っていきたくです。



別科助産専攻
松本 朋子

私が助産師になりたいと思ったきっかけは沖縄に来た事でした。初めて一人暮らしをした私は、両親との絆を感じました。様々な人と出逢い温かさを感じました。また、沖縄では清明祭などで大勢の親戚が集まる機会が多い事を知り、その中で人を思いやる気持ちや命のつながりを学んでいるのだと感じました。そこで、私も新しい命のリレーに携わりたいと思い助産師を目指しました。

これからたくさんの困難にぶつかる事があると思いますが、20名全員合格!!を目指してクラスの仲間と協力し励まし合い頑張っていきます。



大学院博士後期課程
平良 美栄子

修士課程を修了後、大学教員として働きましたが、研究に対する熱い思いをもちつづけて研究を行ってきました。

そのような中、友人に誘われ参加させて頂いたゼミで、ディスカッションを通し研究や看護に対する見方・考え方を深めている方々と知り合い、私自身もこの仲間とともに深めていきたいと考えるようになっていきました。

研究を通し看護に対する新しい知見を発見し、実践の看護ケアへと還元できるように頑張っていきたいと思っています。



平成23年3月15日、看護学部第9回、別科助産専攻第3回、大学院第6回卒業式・修了式が行われ、学部生78名、別科生19名、大学院生8名、合計105名の卒業・修了を祝いました。

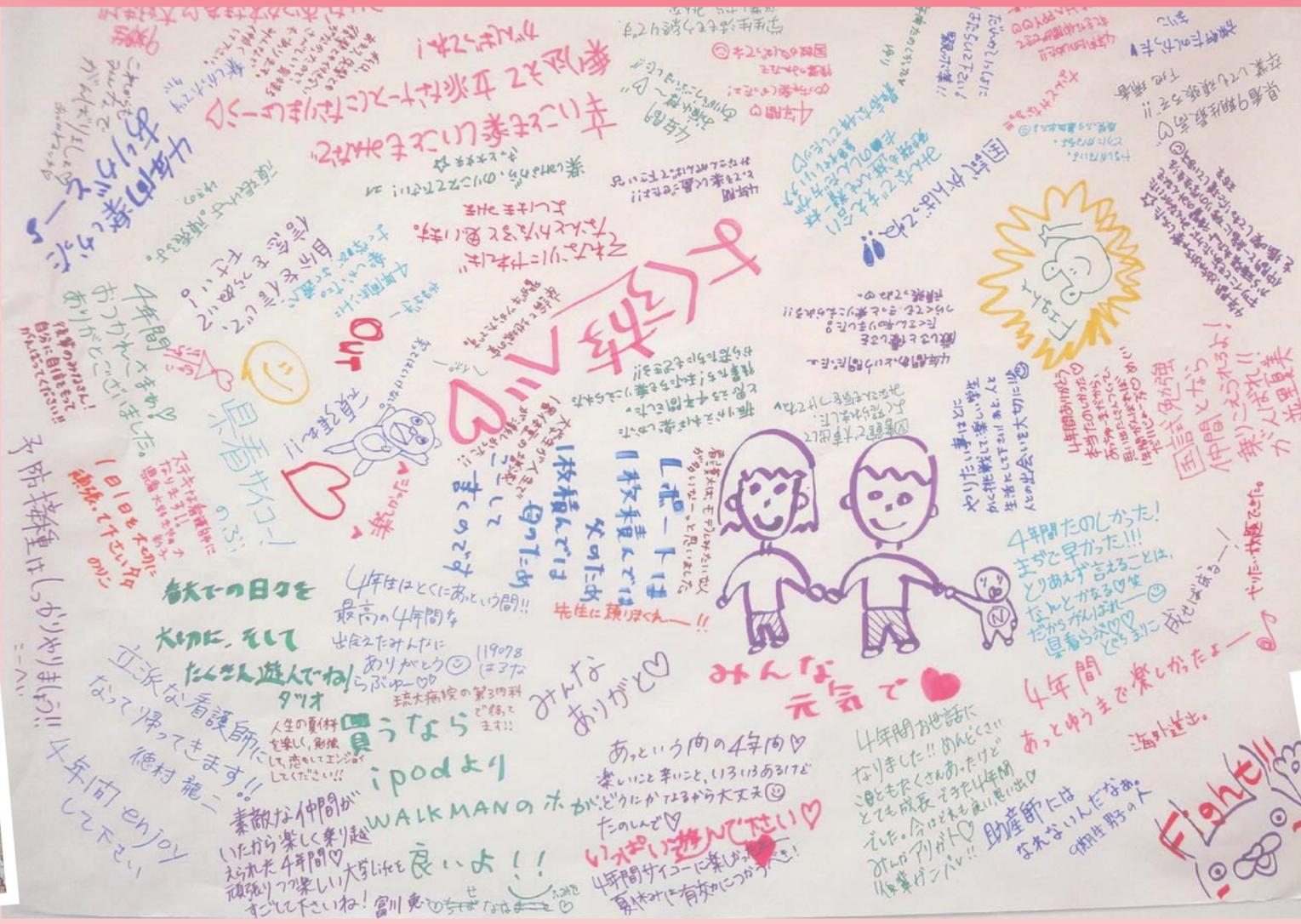
野口学長から105名の卒業生・修了生に告辞が述べられました。

これに続いて、学部卒業生を代表して平安梢さん、別科を代表して大嶋若菜さん、大学院生を代表して平良孝美さんがそれぞれ答辞を述べました。式の冒頭では、3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」の被災者に対し黙祷が捧げられました。

平成22年度卒業式・修了式 105名が有終の美



卒業式を前にして、卒業生から在校生に向けたメッセージを寄せ書きしてもらいました。在校生の皆さん、よく学び よく遊べ!



ケアリングアイランド九州沖縄構想

学生コンソーシアムの活動

メンバー 入南風野愛里 / 國吉 幸二



私たち学生コンソーシアム執行部では、「学生による学生のための学び」をモットーにした活動に日々取り組んでいます。これまでに沖縄地区連携3大学合同で「第1回学生ゼミナール」、「第1回看護学生フェスティバル」を開催してきました。これらの活動での学びを活かし、看護の対象として地域を含めた広い視野が必要だと再認識しました。

去る3月5日に行われた「第1回看護学生フェスティバル」では、理学・作業療法士、栄養士といったコメディカルとの交流等の様々なブースを設け、看護職以外の医療従事者を巻き込んでその役割や連携の重要性を学ぶことが出来ました。その他にも、病院紹介や学校紹介のブース、小児・高齢者体験ブースなどを出展し、来場した学生や運営した学生にとって充実した催しを行うことが出来ました。

このほか、3大学間で交換授業を行ったり、学内では看護・保健師国試問題をメールで配信し自主的な学びを深める支援をしています。さあ！学生コンソーシアムと一緒に活動しましょう！！



演劇サークル

サークル代表 時岡 皓平

僕たち演劇サークルは、主としてその年の四年生男子で構成されています。看大祭で、皆の記憶に残る出し物をしよう！をコンセプトに8期生によって創設されました。

看大祭では、8期生は舞台での演劇、僕たち9期生は映画を撮影し上映しました。

観客を楽しませるにはどうしたらいいかということを真剣に話し合い、時には意見がぶつかることもありましたが、最終的に無事成功し、そして皆の絆は深まったと思います。大学生活の最後に一番の思い出ができました。

後輩たちにも受け継いでいってもらい、大学を盛り上げてほしいと思います。



台北医学大学との姉妹校協定締結

国際交流室運営委員長 神里 みどり

平成23年2月21日(月)、台北医学大学と本大学との学術交流協定の調印式が台北医学大学(台北市)にて開催されました。本大学から前学長である野口美和子、現学長の前田和子、ならびに国際交流室委員長、島嶼看護領域の博士後期課程の学生3名が調印式に出席しました。

台北医学大学から学長ならびに看護学科長代理、看護学科の教員10名が参加し、交流協定に関する双方の大学からの期待と抱負が各学長によって語られました。沖縄県に最も近いアジア諸国との交流が実現できたことは本大学にとって太平洋島嶼国との国際交流のさらなる発展につながっていく、すばらしい機会が得られたと自負しております。

今後、交流に関する具体的な計画を立案し、学生ならびに教職員の相互交流を実現していきたいと考えております。交流に関する具体的なご意見などございましたら国際交流室運営委員会までお寄せください。



平成20年度文部科学省採択組織的な大学院教育改革推進プログラム(大学院GP)「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の成果報告

大学院GP取り組み実施代表者 神里 みどり

平成23年3月5日(土)、平成20年度文部科学省の助成金による組織的な大学院教育改革推進プログラム「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の3年間の活動成果報告会が本大学にて開催されました。成果報告会では、3年間の取り組み実績とその評価、さらに島嶼保健看護領域の博士前期・後期課程の学生7名による島嶼看護の研究報告がなされました。成果報告会は本大学から遠隔にて宮古島にある本大学のサテライト教室へも配信され宮古島での遠隔参加者22名、本大学での参加者62名、総計84名の参加者でした。参加者は学内外の大学の教員や大学院生、さらに離島地域の医療保健看護職のリーダーなどが参加し、活発な意見交換がなされました。

本大学のプログラムでの成果や学生の研究報告を通じて、島嶼看護の人材育成の重要性や島嶼看護学の学問構築の意義がさらに深まったと感じております。本大学の大学院GPプログラムの事業は、3月をもって3年間の活動を終了いたしますが、大学院に「島しょ保健看護」の領域が存続され、さらなる島嶼看護の人材育成を行っていく所存です。今後とも地域の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



平成20年度 質の高い大学教育推進プログラム(学部GP)「島嶼環境を活かして学ぶ保健看護の教育実践」の成果報告

学部GP教員チーム 石川 りみ子

本取組みは、生活者の視点と協働能力を育む体系的な臨地実習を島嶼で展開するもので、大学教員と島嶼の看護職者ならびに島嶼住民が協力・参加し、教育方法を工夫・改善することにより学生の人材育成機能の強化だけでなく、大学教員の教育力、看護職者の実践力、島嶼住民の役割意識が向上することを期待して、平成20年度から実施されました。

3年間の取組みをとおして、学生は「生活者の視点」、「協働能力」、「ICT活用能力」を育むことができ、また、大学教員、実習指導者、住民ボランティアも期待する成果を得ることができました。

すなわち、住民ボランティアは「地域を誇りに思い、大学教育への協力をとおしてやりがいももてたこと」であり、実習指導者は、一例として「大学との協働プログラム」によって指導力が向上し、「沖縄県立宮古病院実習指導要綱」の作成まで至ったことです。さらに、地域住民から「人材育成につながった」「宮古島の地域づくりに貢献した」との評価が得られたことも嬉しい成果といえるでしょう。



▲ 大学教員と実習指導者との検討会の場面

教職員の動き〈平成23年4月〉(就任・転入)

学部長 嘉手苺英子
 就任して1か月が経ち、学部長の仕事の中心が調整であることを実感しています。教職員と情報をお交わす機会が増えました。このペースにまだ慣れず落ち着きませんが、本学の建学の精神を見失わないように取組んでいきたいと思っています。

副参事 鉢嶺清典
 この4月に着任しました。学生のみなさんの話ぶふりや闊歩する姿に、澁刺としたエネルギーと可能性を感じます。業務上でみなさんとの直接的な関わりは多くありませんが、縁の下で大学運営を支える一端となるよう仕事を進めていきます。

図書館長 大湾明美
 図書館のない小学校で育った私は、「図書館に通う」ことのない学習スタイルができあがり、いまだに図書館に通うことが苦手です。図書館長として、その克服と同時に、地域のニーズを把握し、図書館を含めた大学の資源を教職員と一緒に積極的に地域に発信します。

学務課長 安次富均
 昨年、副参事として本学事務局に配属され、今年は学務課で再出発することになりました。学生により近い立場で業務を進めるため気持ちを新たにしております。

学生部長 金城芳秀
 教育、研究および実践の統合を目指して、日々精進しているが、さらなる能力開発が必要と感じている。一つに、自分の見る目(我見)と学生を見る目(離見)との相違を認識したい。世阿弥のいう「離見の見」から、自分自身の立ち居振る舞いを知り、正すことができればと思う。

総務課主査 赤嶺雄一
 4月1日より総務課に着任した赤嶺です。本庁の企業局から人事異動で参りました。総務課では主に予算経理を担当しております。私は、県の新採用時の職場が「県立芸大」でしたので、大学事務という面では一応経験済みですが、予算経理業務は初めてで、毎日勉強中です。少しでも看護大の役に立てよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

講師 當山紀子
 4月より地域保健看護、国際保健看護領域の講師として着任しました。父の故郷でもある沖縄で働けることを、とても幸せに感じています。また、多くの学生に看護の魅力を伝え、微力ながらこれまでの恩返しができたらと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

附属図書館 仲村渠重政
 図書館の主査(再任用)の仲村渠です。看護大学の図書館は、明るくて勉学に良い環境です。毎日、多くの学生及び教員が利用しています。インターネットによる情報の検索や、他の図書館などからの資料の取り寄せも可能です。来館をお待ちしています。

助手 玉城久美子
 本学の6期生として学び、今年4月から成人保健看護の助手として着任した玉城久美子と申します。臨床で学んだ事を学生達に伝えることが出来たらと考えています。教育、研究者として新人ですが一つ一つ頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

附属図書館 宮城善昌
 本年4月の県の人事配置により、県立看護大学附属図書館に配属となりました宮城と申します。県の再任用で週3日の勤務形態ではありますが、学生や教職員の皆様の勉学、研究等に図書館業務を通してお手伝いできればと思っています。

●退職・転出(平成23年3月)

定年退職 学長 野口美和子
 退職 講師 宮城政也 助手 山本弥生
 定期人事異動(転出) 学務課長 伊敷健伸

平成23年度の主な大学行事(平成23年4月～平成24年3月)

- | | |
|----------------------------|-------------------------------------|
| ● 4月 4日(月) 入学式 | ● 11月 19日(土) 特別選抜入試(看護学科) |
| ● 4月 6日(水) 前期授業開始 | ● 11月 19日(土) 推薦選抜・社会人特別選抜入試(別科助産専攻) |
| ● 5月 15日(日) 開学記念日 | ● 12月 13日(火) 卒業論文発表会 |
| ● 6月 4日(土)・5日(日) 第13回看護大祭 | ● 1月 14日(土)・15日(日) 大学入試センター試験 |
| ● 7月 30日(土) オープンキャンパス | ● 2月 7日(火) 一般選抜入試(別科助産専攻) |
| ● 8月 21日(日)～9月 9日(金) ハワイ研修 | ● 2月 25日(土) 一般選抜入試(前期・看護学科) |
| ● 9月 10日(土) 大学院入試 | ● 3月 12日(月) 一般選抜入試(後期・看護学科) |
| ● 10月 3日(月) 後期授業開始 | ● 3月 15日(木) 卒業式 |

かせかけとは

琉球古典舞踊女七踊りの一つです。総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」「感性」は、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育てる教育・研究の原点に相通するものであろうと、広報誌の名称にしました。



沖縄県立看護大学

〒902-0076
 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
 TEL(098)833-8800(代表) FAX(098)833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>
 ■編集 沖縄県立看護大学/広報・情報専門部会
 ■発行 2011(平成23)年6月9日

かせかけ

Okinawa Prefectural College of Nursing



CONTENTS

- 平成23年度入学式……………2
- ようこそ看護大学へ……………3
- 新入生の声……………3
- 平成22年度卒業式・修了式……………4
- 卒業生の声……………5
- ケアリングアイランド九州沖縄構想
学生コンソーシアムの活動……………6
- 台北医学大学との姉妹校締結……………7
- 大学院GP成果報告……………7
- 学部GP成果報告……………7
- 教職員の動き……………8
- 平成23年度の主な行事……………8

卒業論文に取り組むために文献検索をしている4年次学生